

梅雨明け以降の高温に備えましょう！

令和元年7月25日
埼玉県農林部

彩のかがやきの生育状況

梅雨入り以降の日照不足、低温により作型で生育に違いが認められます。
早植栽培（5月植え）は、ほぼ平年並みの生育で幼穂形成期を迎え穂肥施用時期です。
普通栽培（6月植え）は、葉齢と分けつが平年に比べやや緩慢な生育をしています。

今後の見通し

7月25日気象庁発表の1か月予報では、向こう1か月の気温は高い確率が50%となっています。出穂後20日間の平均気温が27℃を上回ると、白未熟粒の発生する危険性が高まります。

**出穂後20日間は
気温に注意！！**

対策

彩のかがやき穂肥施用時期の目安

1 葉色確認と穂肥

白未熟粒の発生を軽減するために最も重要な対策は、葉色診断に基づく適期・適量の穂肥の施用です。

田植時期	穂肥施用①	穂肥施用②	出穂期予定時期
5月20日	7月21日	8月2日	8月12日～14日
5月30日	7月24日	8月6日	8月16日～18日
6月10日	7月26日	8月10日	8月20日～21日
6月20日	7月30日	8月14日	8月24日～25日

基肥＋追肥体系でも基肥一発体系でも、穂肥施用②の時期（出穂15～10日前）に葉色が4を下回った場合、必ずチッソ成分で2kg/10a程度の追肥を行いましょう。

2 水管理

平年並みに生育している水稻は穂肥施用時期～出穂7日後までは湛水状態を保ち、それ以降は水を入れっぱなしにせず、田に入水したら水口を閉め、自然に落水させる間断かん水を行い根の活力維持に努めましょう。

平年に比べ茎数の少ない水稻は田面の地温をあげて分けつを促進するため浅水気味の水管理など工夫をしましょう。

農作業中の熱中症にご注意ください。